令和７年１１月

四日市市幼児教育センター

センターだより はぐくむ

夢と志を持ち、未来を創るよっかいちのこども

四日市市幼児教育センターＨＰ
連絡先　059-333-6002

就学前教育・保育施設・中学校・小学校など、様々な校園や経験の参加者が保育を参観し、交流しました。

公開保育（研究）実践検討会
南部ブロック・北部ブロック
開催しました。
中部ブロックは、11 月 21日（金）開催です。

2025 年 3 月に「四日市市就学前教育・保育カリキュラム―活用版―」が発刊され、市内就学前施設の保育者の皆様が手元に１冊ずつもち、自身の教育・保育の振り返りに活用していただいていることと思います。

今回の公開保育（研究）実践検討会においても、活用版と合わせて、「こども主体」の保育のプロセスを探り、こどもたちの遊びを通した、探究活動や協働的な姿を感じ意見交流していく場となっているでしょうか。

「活用版発刊に寄せて」で三重大学教授富田昌平先生が、「各園で目の前にいる子どもたちへの実践を考えるうえで、あるいは幼児期の教育から小学校教育への学びの接続について考えるうえで、参考にしていただければと思います。」と記されているように、公開保育（研究）実践検討会での公開園におけるこどもたちの様々な姿を通し、小学校教育への学びの接続や保育の質向上のための研修を目指しています。

来たる 12 月 13 日の教育・保育フォーラムで講演予定である学習院大学教授の秋田喜代美先生がいわれる「保育の構造」に対して、各公開園が真摯に向き合い、こどもの育ちを支えているそれぞれの多様性を吸収し、学びあいたいと思います。

〈4040　4038　公開保育（研究）実践検討会研修後アンケートより〉

積み木は遊びから学習につながる良い道具だと思った。色々な形のものを使ってぴったりに重なるように子ども達が考えているところを見ることができた。 あるものを使って、再現、表現していてすごく楽しそうだった。 小学校でも子ども達の学びにつながるように道具や物、環境を整えてあげたい。

子どもの『やりたい』を突き詰めていく事で知識の獲得、思考、意欲に繋がり、遊びを通しての総合的な指導になっていく事を学びました。そして保育者の関わり、環境設定の大切さを改めて感じました。

小学校と園との環境の違いを感じました。小学校入学時にスムーズに慣れていけるような手立てを取り入れたいと思いました。

是非、教育・保育フォーラムにお越しください。

令和7年度 教育・保育フォーラム
12月13日（土）13:30～15:30
講演 学習院大学教授
秋田喜代美先生

子どもたちの友達と関わる姿や、遊びを自分たちで作っていく力をしっかりとつけている様子が素敵でした。幼稚園での遊びの中でつけた力を、小学校でもそのまま伸ばしていきたいと思いました。

今回の研修を通して教材がただ置かれているのではなく、こどもが自分で選び遊びに活かせる環境設定がされていて、直ぐにでも取り入れたいと思った。

また近くに大人がいることで、困ったらすぐに相談できる環境があり、一緒に考えるような言葉がけをされていたことや、大人が仲間になって遊ぶことで遊びがどんどん展開していく様がとても参考になった。

また、友だちや保育士など他者の手を借りながらも自分でやることで、やりきった気持ちになり、更なる意欲に繋がっていけるような関わりが大切になってくるのだと、以上児保育を改めて見直す機会になった。

先生と子どもは共主体者である。共に創っていく関係性であることを学び、子どもが主体的になるように促すのではなく、関わりの中で創っていくものだと教えていただいた。子どもがもっとやりたい！明日もしたい！と思える場所に、学校もしていきたいと思いました。

先生方の工夫と共に、子どもたちが伸び伸びそして生き生きと遊びを広げていく姿が見られて、見ているこちらもワクワクしました。研修会の中では初めて聞く【共主体】という言葉を知り、より主体とは何かを考える機会となりました。また職員間でも主体とは何かそれぞれ考えを集約する機会の必要性は感じました。今の園の環境で、限りはありますが、こどもの繰り返し夢中で遊べる環境に近づけるような保育に少しずつでも近づけるような提案をしていきたいと思います。

結果ではなくプロセスを大切にする。いつも思うことですが、あらためてその大切さを感じました。 保育者へもプロセスの重要性を伝えていきたいです。

年齢、発達段階に応じた教師の出場、かかわり、支援を考えさせられました

保育者の子どもへの関わりや声かけ、仕掛けなど学んだ事を小学校へも伝えられたらと思います。

子どもの主体性を大切にした保育とは何か、子どもの主体性を育むための保育者としての姿勢はどのようなものかが自分の中で整理できたように思います。これまで、「子どもの主体性を大切にした保育」と聞くと子どもの興味関心を受け止めその要望に応えるということだと捉えていたため、就学を見据えた幼児に対してはその関わりが適切なのかと日々の保育の中で対応に困ることがありました。

しかし、先生方の関わりを観察させていただき、子どものちょっとしたつぶやきを拾ってその興味関心が広がるように環境を整えたり、時には手伝ったりして支えることこそ、本来の意味での主体性を大切にした保育だと気づくことができました。

また、実践検討会での富田先生の「保育者も仲間の一員であるため主体性を発揮していい」と言うお言葉も印象的で、子どもたちの世界に自分も参加しその中で見つけた「すき」を広げられるような保育を展開していきたいです。

「遊びやくらしの中で、それぞれの子の主体性の種がおのずと芽を出し伸びる環境や経験を、教師もまたその教師らしい主体性をもって、その園ならではの環境や遊びを活かして創意工夫し探究をする。子ども同士、教師も共に探索や探究し始める共同主体（co-agency）の関係を大事にしたい。」P129～P130

「保育の心もち 2.0～新たな窓を開く～　秋田喜代美著ひかりのくに株式会社より」